

“祭り”を起点とした継続的な関係人口創出 ～秋田県鹿角市におけるワデュケーション実証からの示唆～

① 取り組みの背景

持続可能な地域社会の実現にむけて、東京一極集中から自律分散型社会への転換が求められています。地域循環型ミライ研究所は、地域固有の社会的価値(文化・食・自然・歴史など)から経済的価値を生み出し、それが再び社会的価値の保存・発展に繋がる「社会と経済の循環」が重要と考えています。

特に人を起点とした「循環」、都市部と地域を行き来する「関係人口」に着目し、地域外民が地域活動に関与することで、地域愛の醸成と地域活性化を図ることを目指しています。

本実証では、企業等の団体に所属する社員を「関係人口の潜在層」と捉え、秋田県外に居住する一般企業の社員を対象に、地域でリモートワークを行いながら、その地域の祭り等の地域活動に参加する「ワデュケーション」*1を実施することで、企業等の団体が地域に創り得る、地域外民による地域内で活躍できる場(関わりしろ)の可能性や継続性について検証を行いました。

※1 ワデュケーション=(Work(仕事)+Education(地域ことを学ぶ教育)+Vacation(休暇))

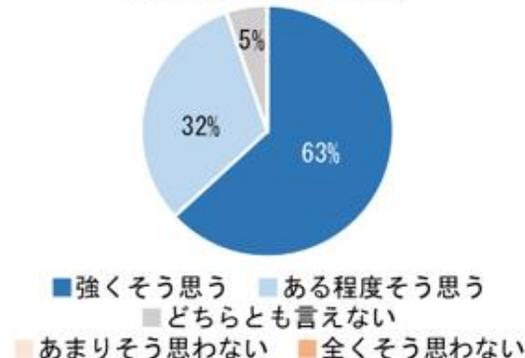
② 実証概要

実施地域	秋田県鹿角市
実施期間	[第1回]2024/5/22~24、[第2回]2024/8/19~22
実施目的	地域の祭り参加やコミュニティ活用などによる関係人口における関わりしろと継続性について実証
参加者	NTT東日本、NTT西日本、MURC、ANA総研、秋田銀行の社員で構成(第1回参加者17人、第2回参加者19人)
実施内容	①地域資源:商店街、酒蔵、鉱山見学、史跡整備などをリサーチ ②祭り:ユネスコ世界無形文化遺産(花輪ばやし)に押し手参加 ③地域交流:住民と地域の魅力等を考えるワークショップを開催 ④コミュニティ:「鹿角家」に加入し、首都圏開催のイベントに参加

※本実証は秋田県、鹿角市、(株)ANA総合研究所の協力のもと実施しました

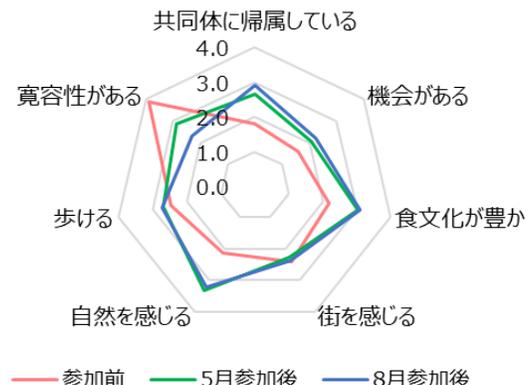
【参加者アンケート(祭り参加後)より抜粋】

祭りに参加することで、地域との関係性は深くなると感じますか



【参加者アンケート(ウェルビーイング)より抜粋】

センシユアス・シティ【行動因子】



【鹿角ワデュケーションの様子】



[撮影]NTT東日本写真

“祭り”を起点とした継続的な関係人口創出 ～秋田県鹿角市におけるワデュケーション実証からの示唆～

NTT東日本 地域循環型ミライ研究所
三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同実証

③ 実証結果

参加者に対してアンケートを実施し、その分析結果から以下の考察が得られました。

■ 個人の意識変容

- 様々な地域資源を現地で学び、ワークショップでアウトプットすることで、地域課題を自分事としてとらえ、地域への関与意欲や想いが「応援」から「共創」へ変化する <地域への関与意欲が3.0→3.4に上昇(4が最大)>
- 地域外民のアイデアは、地域側もシビックプライド醸成や地域活性を自分事として考えるきっかけに繋がる

■ 地域を再訪する動機と機会の創出

- 祭り参加は、地域の一員としての役割を担え、住民とのコミュニケーションを通じ、その地域への帰属意識を醸成する。参加者の95%が祭りへの再参加を希望しており、祭りを起点とした関係人口の創出は大きいと言える
- 「ヒト」も地域の魅力であり、地域内外の交流が関係人口創出に重要である

■ 訪問しない期間の地域との接点構築

- 参加者全員がオンラインの関係人口コミュニティ「鹿角家」に加入し、6名が後日首都圏における交流イベントに参加した。地域外でのイベント等があるコミュニティへの参加は、訪問以外の地域との繋がり維持に効果的である

④ 実証から見えてきた課題

ワデュケーションを実施したことで、以下の課題も浮き彫りとなりました。

■ 祭りの受け入れ態勢

- 代々受け継がれてきたしきたりが確実に参加者に伝わっていないと、トラブルを誘発しかねない
- 参加者に対しての上記しきたり等の必要な説明機会の仕組み化

■ 費用補助

- 祭り等による季節的な宿泊費の高騰
- 大規模参加者や個人での参加が困難なため、関係人口施策に関する補助制度の拡充

■ プログラムとウェルビーイングの関係

- 一部の参加者においては、祭り参加後に地域への寛容性の評価の低下がみられた。祭り参加を通じて、地域内の「ヒト」と「ヒト」の距離の近さや、厳格なしきたりを肌で感じたことがマイナスの影響を与えたと想定される
- 参加者に合わせ、文化保護と地域住民との交流のバランスを調整する必要あり

⑤ 継続的な関係人口創出に向けた国、自治体・地域・企業への提言

本実証の成果を踏まえ、以下の通り継続的な関係人口創出に向けて取り組むべきことを提言します。

【国や自治体に対して】

関係人口の継続モデルのガイドライン策定とその発信強化

- 関係人口が地域へ関与する際の費用を国や自治体が補助する仕組み
- 経済・社会的価値の可視化による企業や投資家から関与の促進

【地域に対して】

関係人口の受け入れ態勢の整備促進

- 祭りの受け入れ態勢及び仕組み化の検討
- 訪問以外で地域と繋がることのできるリアルとバーチャルのハイブリット型コミュニティの設計

【企業に対して】

都市部の企業による積極的なワデュケーション展開

- 社員の幸福度向上にむけた参加促進の仕組み
- 多様な地域交流によるイノベーション創出
- 「越境学習」や「事業創出」を通じた地域活性化への貢献